

## 2025. 7. 29 無限に広がる世界を大切にしたい

先日、三校園夏季教育実践研究会がありました。これは、附属義務教育学校（前期課程、後期課程）、附属特別支援学校、附属幼稚園の教員らが事例をもって集まり、語り合うという会です。毎年7月終わりと3月終わりに行っています。そこにファシリテーターとして福井大学連合教職大学院の先生方が入ってくださいます。

研究会のテーマは「実践を深く聞きあい、省察的实践力を磨く」です。単元や一連の学習活動、遊びを通して、子供たちがどのように学びを深めていったかを、事実に基づいた学びのストーリーを文章にし、培っていききたい資質能力を明確にしていく。またその実現のために保育・授業者はどのような支援や環境をマネジメントしていたか。どのような文化、人間関係が影響しているかなども分析していくという視点のもと、異校種のメンバーが混じり合ったグループで持ち寄った事例を聞き合っていきます。

1事例 80分というゆったりとした時間の中で、幼稚園、義務教育学校前期、後期課程、特別支援学校、それぞれの学年の学びの内容や子供の姿、先生方の試行錯誤や工夫を聞き合う中で、学びのストーリーそのものに感動したり、幼稚園・前期・後期・特支という自分の所属している施設や自分自身の見方・考え方の枠と、同じところや異なるところだと感じる場所を語り合ったり、ファシリテーターの先生方が出してくださる視点から捉え直したりする時間でした。

私のグループは、前期課程3年生理科、後期課程9年生数学の事例を聞き合いました。どの事例もとても面白い！そして義務の先生方が子供たちの思いや行動に寄り添いながら、内容を変えていく、必要に応じて単元・教科をも超えていく。悩みや苦労もいろいろありましたが、それを踏まえたそのデザイン力と柔軟性にはとても感銘を受けました。

そして、子供たちの考えを揺さぶる問いかけをどんどんしていること、そこから本質を一緒に考えていく、深堀していく。共創していく。そのような中で、子供たちも教員も算数や理科の世界を共に楽しんでいるようにも思えました。

幼稚園でツバメの出会いから広がっていく世界について紹介をすると、「無限に広がっていく世界って素敵だよね！それをどう僕たちがつないでいくかだね！」と話が出ました。幼稚園では、いろいろな出会いから、遊びを通して好きになり、自分なりに世界をひらいていく。教師の想像を超えて、無限に広がっていったほしい。それが、義務教育学校になり、その本質に目を向けたり、さらなる仕組みや構造、意味を知ったり、自分たちで世界を創り出していく手ごたえや期待感につながったりとなっていく。この語り合いから、いろいろと感ずることができました！これからもこのような時間を大切にしていきたいです。

